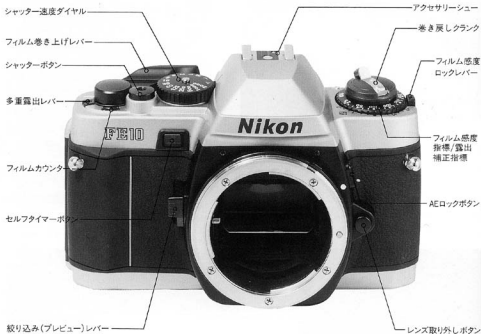


ニコンFE10

(株)ニコン カメラ開発部



スペック

- 型式 ■フォーカルブレンシャッター式一眼レフカメラ
- 使用フィルム ■135サイズ
- 画面サイズ ■24×36mm²
- レンズマウント ■ニコンマウント
- シャッター ■上下走行式フォーカルブレンシャッター、オート時8〜1/2000秒、マニュアル時B、1、1/2、1/4、1/8、1/15、1/30、1/60、1/125、1/250、1/500、1/1000、1/2000秒、13段階
- ファインダー ■ペンタプリズム使用、アイレベル式、ファインダースクリーン：専用K型（スプリットマイクロ式）、視野率約93%、倍率0.84倍（50mmF1.4、∞）、ファインダー内表示：16ドットLEDによる点灯・点滅表示、オート表示、シンクロ表示、シャッター速度表示（1〜1/1000秒）、スローシャッター表示（2〜8秒）、バルブ表示
- 焦点調節 ■マニュアルフォーカス
- 露出機構 ■TTL中央部重点開放測光、絞り込み測光可能、露出計運動：AI方式（開放F値自動補正方式）、モード：絞り優先AE、マニュアル、EV1〜18（50mmF1.4レンズ、F1.4・1秒〜F11・1/2000秒）、フィルム感度：ISO25〜3200、露出補正：ISO

- 変更による±2段（1/3ステップ）目盛り付き、オート時AEロックあり、多重露出：多重露出レバーによる
- シンクロ接点 ■X接点のみ、1/90秒以下の低速シャッター速度で同調、ニコンスピードライト使用時はA、マニュアル（1/125〜1/2000秒）設定時でも1/90秒に自動セット
- セルフタイマー ■電子式約10秒
- フィルム給送 ■巻き上げ：1作動レバー式、巻き上げ角135°、予備角30°、巻き戻し：巻き戻しボタンと巻き戻しクランクによる
- 電源 ■1.55V銀電池（SR44タイプ）2個または1.5Vアルカリ電池（LR44タイプ）2個または3Vリチウム電池（CR-1/3Nタイプ）1個
- 大きさ・重さ ■約139×86×53mm、約400g
- 価格 ■ボディ¥47,000、AIズームニッコール35〜70mmF3.5〜4.8S・カメラケース・ストラップセット¥60,000
- 発売 ■1997年2月22日
- 問合せ ■㈱ニコン TEL(03)3216-1010

概要

近年、カメラの主要機能（露出、ピント、フィルム給送）の自動化が推し進められ完璧されるなか、依然としてマニュアルカメラの需要は根強いものがある。

当社の「NewFM2」も発売から13年を迎えるが、現在も多くのご支持をいただいております、今後も引き続き需要に応じていく計画である。

'95年にはさらにマニュアル機のラインアップを充実させ、かつ幅広いユーザーに対応するために低価格機のみカニカルシャッター式一眼レフカメラ「FM10」を発売し、好評を得ている。

今回開発されたカメラ「FE10」（写真1、図1）はそのFM10の姉妹機として露出制御を自動化した、電子シャッター式TTL絞り優先AE一眼レフカメラである。したがって開発にあたっては、FM10の基本的な開発方針を引き継ぎ、かつAE機としての特徴を生かすため以下にあげた開発方針ののちって開発を進めた。

- ①堅牢性を重視した上で小型、軽量を図り、シンプルで使いやすいカメラとする。
- ②カメラの原点でもあるシャッターの切れ味の向上を考慮し、ミラーのバウンド、ショックなどの軽減を図る。
- ③FM10との共通化を推し進めることによりコストダウンを図り、コストパフォーマンスが高く、入手性のよい低価格機とする。
- ④低価格機であってもニコンの一眼レフカメラとしてシステム性を重視する。
- ⑤AEカメラとしての使い勝手を熟慮し、使用頻度に応じた操作形態を採用する。

外観デザイン

「シンプル&ベーシック」をキーワードとしてデザインされたFM10はバランスのとれた構成と、高い品質感から発売以来好評をいただいていた。

FE10のデザインにあたってはその特徴を生かすことを第1に考えてデザインを進めた。

FM10からFE10に引き継がれた外観デザインにおける基本方針を以下にあげる。

- ・ボディ前面は張りのある曲面とし、単なるレトロ調カメラとは一線を画す。
- ・グリップ部、および裏蓋にはゴム風塗装を施し、ホールディング性と触感を向上させ、かつ前グリップはニコンF3と同様のボディと一体感のある形状を採用する。

また、グリップ部に赤ラインを入れニコンのアイデ



写真1 ボディ外観



写真2 ボディ上面。ISO設定目盛りを巻き戻しクランク側に単独で設け、露出指標をそのままに配置した

ンティティをアピールする。

・ボディの外観構成をニコンF3/NewFM2の構成と同様に水平の分割とし、分割のラインをバランスよく配置することでシンプルで精悍なマニュアルフォーカス機のイメージを踏襲する。

・チタンカラーを採用し、従来のクローム色とは違った暖かみ、新鮮さと高級感のある外観とする。

FE10とFM10の外観上の大きな違いは巻き戻し部とセルフタイマーの2カ所である。

FM10ではシャッターダイヤル内にあったISO設定ダイヤルを巻き戻し側に単独で設け、露出補正指標をその周りに配設した（写真2）。それに伴ってシャッターダイヤル形状も変更し、中央にロックボタンを設けた。

FM10ではレバー式のみカニカルセルフタイマーを採用したが、FE10はボタンを押すことにより起動する電子制御式セルフタイマーを採用した。これによりグリップ周りをすっきりさせることができ、ホールディ

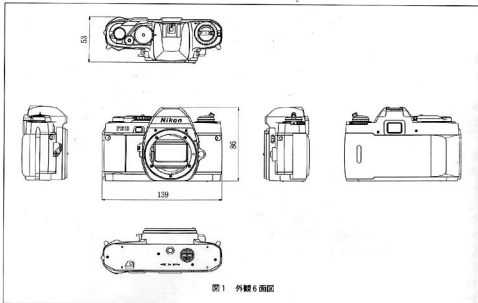


図1 外観6面図

ング性の向上にもつながった。

操作部材においてはAE複ということもあり、シャッターダイヤル、ISOダイヤルにロック機構を設け、ダイヤルが不用意に動かないよう配慮している。

また、AEロックボタンは操作しやすいように絞りリングの横に設け、ファインダーを見ながら左手親指で1プッシュすることによりロック状態を保持する方式を採用した(写真3)。

そのほか、多重露出の設定操作などはFM10同様に従来機種NewFM2の操作方式を踏襲し、操作方法の統一化を図っている。

内部構造

(1)ボディ構成と機構配置

FE10のボディ構成は巻き上げ機構、チャージ機構およびシャッターなどが組み込まれたボディ本体と、フ

ァインダー光学系、ミラー駆動機構および絞り制御機構などが組み込まれたミラーボックスに大別される。

ペンタプリズム横の巻き上げ側にはシャッター速度の設定ユニットが置かれ、上カバーのダイヤルと連動している。A(オート露出)およびL(電源OFF)の位置ではロックが可能である。前部には電子式セルフタイマーの操作ボタンを設置して、LEDによる作動表示機能ももたせている。また、巻き戻し側にはフィルム感度の設定ユニットを置き、ロック機構を付けて誤作動防止の配慮をしている。

ミラーボックスの巻き上げ側面には、ミラー駆動および絞り制御機構が1枚の基板にユニット化しており、その横にリリーズマグネットを連結して配置している。また、底面にはミラーボックスのチャージ部材およびミラーのダウン係止解除マグネットが載ったユニット基板を設けた(図2)。

ボディ本体およびミラーボックスはアルミダイキャスト製であり堅牢で信頼性が高い。また、基本構造を姉妹機のFM10と同じにして、65%の部品共通化を図り、低価格を実現している。

(2)ファインダー

ペンタプリズム使用のアイレベル式で、ファインダー視野率は93%、ファインダー倍率は0.84倍(50mmレンズ・∞時)である。ファインダースクリーンには、スプリットマイクロ式の専用K型スクリーンを使用し



写真3 絞りリング横のAEロックボタン